

# デーヴォ ガイド



**2024.1.20-26**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## LTG ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

6:22 その翌日、湖の向こう岸にとどまっていた群衆は、前にはそこに小舟が一艘しかなく、その舟にイエスは弟子たちと一緒に乗らずに、弟子たちが自分たちだけで立ち去ったことに気づいた。

6:23 すると、主が感謝をささげて人々がパンを食べた場所の近くに、ティベリアから小舟が数艘やって来た。

6:24 群衆は、イエスも弟子たちもそこにいないことを知ると、自分たちもそれらの小舟に乗り込んで、イエスを捜しにカペナウムに向かった。

6:25 そして、湖の反対側でイエスを見つけると、彼らはイエスに言った。「先生、いつここにおいでになったのですか。」

6:26 イエスは彼らに答えられた。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。」

6:27 なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくなるしない、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の子に、神である父が証印を押されたのです。」

6:28 すると、彼らはイエスに言った。「神のわざを行うためには、何をすべきでしょうか。」

6:29 イエスは答えられた。「神が遣わした者をあなたがたが信じること、それが神のわざです。」

6:30 それで、彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じられるよう

に、どんなしるしを行われるのですか。何をさせていただきますか。」

6:31 私たちの先祖は、荒野でマナを食べました。『神は彼らに、食べ物として天からのパンを与えられた』と書いてあるとおりです。」

6:32 それで、イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。モーセがあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。わたしの父が、あなたがたに天からのまことのパンを与えてくださるのです。」

6:33 神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものなのです。」

6:34 そこで、彼らはイエスに言った。「主よ、そのパンをいつも私たちに与えてください。」

6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」

6:36 しかし、あなたがたに言ったように、あなたがたはわたしを見たのに信じません。」

6:37 父がわたしに与えてくださる者はみな、わたしのもとに来ます。そして、わたしのもとに来る者を、わたしは決して外に追い出したりはしません。」

6:38 わたしが天から下って来たのは、自分の思いを行うためではなく、わたしを遣わされた方のみこころを行うためです。」

6:39 わたしを遣わされた方のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしが一人も失うことなく、終わりの日によみがえらせることです。」

6:40 わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持ち、わたしがその人を終わりの日によみがえらせることなのです。」

群衆は熱心にイエス様を追い求めました。しかしそれは「パンを食べて満腹した」という御利益があったからです。イエス様は「なくなる食物のためではなく」と言われます。神様のみわざであったとしても、御利益で求めたものはなくなってしまうのです。主は与えてくださいますが、それは「永遠の命に至る」ものを与えたいからです。

それはイエス様への信仰です。それを求めて受けましょう。イエス様を信じるというのは群衆のような信じ方なく、何かをもらえるというではありません。イエス様が救い主であり、聖主であり、癒し主であり、全能の従うべき王であることを信じるということです。イエス様はそれを求めておいでなのです。それは信じる者の勝利と祝福になるからです。

群衆はしるしを、すなわち奇跡を求めました。しかしイエス様はしるしではなく、ご自身を示されて、「わたしがいのちのパンです。」と明言なさいました。しるしを求める者よりも、イエス様ご自身を理解して求め、そして受け入れる者を願っておられるのです。自分の欲しいものを求めることは悪ではありません。しかし与えられた、答えられたという満足で終わらずに、主のみこころを求めて従ったことに満足しましょう。

永遠のいのちとそれを伝えることが「父のみこころ」ですから、そのことを続けていきましょう。

- ①神のみこころは？ ②どんな思いになりましたか？ ③生き方にどう適用しますか？ ④この世にあって何を実践しますか？

## 21日 火曜

ヨハネ



6:41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンです」と言われたので、イエスについて小声で文句を言い始めた。

6:42 彼らは言った。「あれは、ヨセフの子イエスではないか。私たちは父親と母親を知っている。どうして今、『わたしは天から下って来た』と言ったりするのか。」

6:43 イエスは彼らに答えられた。「自分たちの間で小声で文句を言うのはやめなさい。

6:44 わたしを遣わされた父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとに来ることはできません。わたしはその人を終わりの日によみがえらせます。

6:45 預言者たちの書に、『彼らはみな、神によって教えられる』と書かれています。父から聞いて学んだ者はみな、わたしのもとに来ます。

6:46 父を見た者はだれもいません。ただ神から出た者だけが、父を見たのです。

6:47 まことに、まことに、あなたがたに言います。信じる者は永遠のいのちを持っています。

6:48 わたしはいのちのパンです。

6:49 あなたがたの先祖たちは荒野でマナを食べたが、死にました。

6:50 しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことはありません。

6:51 わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。そして、わたしが与えるパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」

6:52 それで、ユダヤ人たちは、「この人は、どうやって自分の肉を、私たちに与えて食べ

させることができるのか」と互いに激しい議論を始めた。

6:53 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。

6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。

6:55 わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物なのです。

6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。

6:57 生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。

6:58 これは天から下って来たパンです。先祖が食べて、なお死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」

6:59 これが、イエスがカペナウムで教えられたとき、会堂で話されたことである。

パンとは人にとっては、生きるための糧であり、労働の目的です。世の人はそれさえあれば安心と思いい、それが最優先課題であると信じ込んでいます。しかしイエス様はそれ以上に大切なものがあると教えられます。それは永遠に変わるものがない「天」であり、この世の事象を支配する天の父のみこころです。ですから「天から下って来た」イエス様こそが、何よりも大切な方であり、肉体の命ではなく永遠の命のための「パン」なのです。

イエス様は十字架でその「肉」を裂いて「与え」てくださって、「生けるパン」となってくだ

さいました。そこまでして与えてくださった永遠の命であり、また真理ですから、私たちはこれを最優先課題にして、そのためにこそ生きてゆきましょう。

「肉を食べ、その血を飲む」とは、イエス様の尊い犠牲を受け入れるということです。まるで人肉を食べるかのような、生々しい表現がなされています。しかしイエス様の十字架はまさに生々しいものです。そして痛み苦しによって、命が与えられているのですから、外れた表現ではないのです。むしろそれほどの犠牲によって、私たちは生かされているのだということを感じる必要があるからこそ、聖書にそのことばあるのです。

イエス様にそれほどの苦しみを負わせた私たちなので、いままら自分を取り繕う必要はありません。いままらイエス様に負担をかけないような生き方ができるなどと、幻想を抱く必要もありません。それをイエス様も求めてはられません。ただ「わたしを食べる者」が「わたしによって生きる」という、いのちの関係を願っておられるのです。

イエス様の「肉を食べ」「血を飲んだ」私たちは、「永遠のいのちを持って」いること、「終りの日によみがえらせ」ていただけることを、当たり前のように確信して、イエス様の愛のうちに日々、瞬間瞬間「とどまり」続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## 22日 水曜

ヨハネ

6:60 これを聞いて、弟子たちのうちの多くの者が言った。「これはひどい話だ。だれが聞いていられるだろうか。」

6:61 しかしイエスは、弟子たちがこの話について、小声で文句を言っているのを知って、彼らに言われた。「わたしの話があなたがたをつまずかせるのか。」

6:62 それなら、人の子がかつていたところに上るのを見たら、どうなるのか。

6:63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです。

6:64 けれども、あなたがたの中に信じない者たちがいます。」信じない者たちがだれか、ご自分を裏切る者がだれか、イエスは初めから知っておられたのである。

6:65 そしてイエスは言われた。「ですから、わたしはあなたがたに、『父が与えてくださらないかぎり、だれもわたしのもとに来ることはできない』と言ったのです。」

6:66 こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去り、もはやイエスとともに歩もうとはしなくなりました。

6:67 それで、イエスは十二人に、「あなたがたも離れて行きたいのですか」と言われた。

6:68 すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ、私たちはだれのところに行けるでしょうか。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。」

6:69 私たちは、あなたが神の聖者であると信じ、また知っています。」

6:70 イエスは彼らに答えられた。「わたしが



あなたがた十二人を選んだのではありませんか。しかし、あなたがたのうちの一人は悪魔です。」

6:71 イエスはイスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのであった。このユダは十二人の一人であったが、イエスを裏切ろうとしていた。

ここでの弟子とは、単にイエスという先生の教えを求めていたくらいの人々でしょう。現代の教会においても、熱心だけれども信仰はあやしいという人もいますから、注意が必要です。自分の価値観に合っていると思えるうちは喜んで、集会や交わりにも参加しますが、何か合わないものがあると去ってしまいます。

何よりも大切なのは、その人がイエスを師としてではなく、主として全面的に信じて従っていることです。その基本が何よりも十字架なのです。

「いのちを与えるのは御霊です。」とイエスが言われるように、十字架は御霊によってしか信じ受け入れることができません。

ですから御霊によって信仰に至ることができたのは、ただ主の恵であり、イエス様が「わたしがあなたがた12人を選んだのではありませんか。」と言われるのです。

信じていのちを与えられた私たちは、全能の神から選ばれた者です。また十二弟子のように尊い使命が地上において与えられているのです。感謝と誇りと自信をもちつつ、謙遜に使命を果たして生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





## 23日 木曜

ヨハネ

7:1 その後、イエスはガリラヤを巡り続けられた。ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたので、ユダヤを巡ろうとはされなかったからである。

7:2 時に、仮庵の祭りというユダヤ人の祭りが近づいていた。

7:3 そこで、イエスの兄弟たちがイエスに言った。「ここを去ってユダヤに行きなさい。そうすれば、弟子たちもあなたがしている働きを見ることができます。

7:4 自分で公の場に出ることを願いながら、隠れて事を行う人はいません。このようなことを行うのなら、自分を世に示しなさい。」

7:5 兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。

7:6 そこで、イエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも用意ができています。

7:7 世はあなたがたを憎むことができないが、わたしのことは憎んでいます。わたしが世について、その行いが悪いことを証しているからです。

7:8 あなたがたは祭りに上って行きなさい。わたしはこの祭りに上って行きません。わたしの時はまだ満ちていないのです。」

7:9 こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。

7:10 しかし、兄弟たちが祭りに上って行った後で、イエスご自身も、表立ってではなく、いわば内密に上って行かれた。

7:11 ユダヤ人たちは祭りの場で、「あの人はどこにいるのか」と言って、イエスを捜していた。



7:12 群衆はイエスについて、小声でいろいろと話をしていた。ある人たちは「良い人だ」と言い、別の人たちは「違う。群衆を惑わしているのだ」と言っていた。

7:13 しかし、ユダヤ人たちが恐れたため、イエスについて公然と語る者はだれもいなかった。

前章には「弟子たちのうちの多くの者が離れ去り」とあります。イエス様にとっては、人間的に見れば失意の時であり、慰めや励ましが必要な時でもあります。イエス様の肉の兄弟たちはそのような兄イエスを見て、きっとやさしい気持ちからでしょう…希望につながるようなアドバイスをしました。

イエス様の奇跡のわざを見て、それを多くの人の前で行うなら、兄は世の成功者になれると考えたのです。私たちも同じように、人情からありがたい助言をもらうことがあります。家族であったり、友人であったり、先輩であったりするでしょう。気持ちを考えると否定もできないものです。

しかしここでは「兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。」と書いています。信仰から出ていなかったのです。またイエス様の救いの大使命を単なる個人の成功のレベルでしか捕えていなかったのです。

私たちは個人の成功を求めていけないではありません。しかしそれよりもっと大きな価値と、それを実現するための使命があるのです。人情はありがたいですが、それに左右されるなら大切なものを失う場合が少なくありません。

イエス様に対する兄弟のアドバイスは、イエス様の命を危険にさらすことになります。また全人類の救いという絶大なる成功を損なうタイミングだったのです。「わたしの時はまだ来ていません。」と言うとおりです。

人よりも神様のみこころを優先できる人になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 24日 金曜

ヨハネ



7:14 祭りもすでに半ばになったころ、イエスは宮に上って教え始められた。

7:15 ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は学んだこともないのに、どうして学問があるのか。」

7:16 そこで、イエスは彼らに答えられた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わされた方のものです。」

7:17 だれでも神のみこころを行おうとするなら、その人には、この教えが神から出たものなのか、わたしが自分から語っているのかが分かります。

7:18 自分から語る人は自分の栄誉を求めます。しかし、自分を遣わされた方の栄誉を求める人は真実で、その人には不正がありません。

7:19 モーセはあなたがたに律法を与えたではありませんか。それなのに、あなたがたはだれも律法を守っていません。あなたがたは、なぜわたしを殺そうとするのですか。」

7:20 群衆は答えた。「あなたは悪霊につかれている。だれがあなたを殺そうとしているのか。」

7:21 イエスは彼らに答えられた。「わたしが一つのわざを行い、それで、あなたがたはみな驚いています。」

7:22 モーセはあなたがたに割礼を与えました。それはモーセからではなく、父祖たちから始まったことです。そして、あなたがたは安息日にも人に割礼を施しています。

7:23 モーセの律法を破らないようにと、人は安息日にも割礼を受けるのに、わたしが安息日に人の全身を健やかにしたということで、あなたがたはわたしに腹を立てるのですか。

7:24 うわべで人をさばかないで、正しいさばきを行いなさい。」

正しく生きる者への批判は、逆に正当性を表す結果になるものです。ここでは「この人は…どうして学問があるのか」という驚きまでもが、主イエスを「殺そうとする」批判に繋がってしまいます。イエス様はそこでご自分の正当性を明かにします。

批判と擁護の問題は多くの場合、判断基準から食い違っていることが多いものです。クリスチャン同士でも、優先順位や人と神の価値観で食い違ったままという場合もあり得るものです。

イエス様の正当性を示す判断基準は、「教えは…わたしを遣わした方のもの」であるということです。また「自分を遣わした方の栄光を求め」ているということです。つまり父なる神様のみこころに生きているということです。それは「うわべ」の律法を守っている姿勢よりも、確かなものであり、本人を保証するものです。

自分も含めて人の評価は、それだけ神様の「みこころを行おうと願うか」であり、そして行っているかです。その点を大切な価値観としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 25日 土曜

ヨハネ



7:25 さて、エルサレムのある人たちは、こう言い始めた。「この人は、彼らが殺そうとしている人ではないか。」

7:26 見なさい。この人は公然と語っているのに、彼らはこの人に何も言わない。もしかしたら議員たちは、この人がキリストであると、本当に認めたのではないか。

7:27 しかし、私たちはこの人がどこから来たのか知っている。キリストが来られるときには、どこから来るのかだれも知らないはずだ。」

7:28 イエスは宮で教えていたとき、大きな声で言われた。「あなたがたはわたしを知っており、わたしがどこから来たかも知っています。しかし、わたしは自分で来たものではありません。わたしを遣わされた方は真実です。その方を、あなたがたは知りません。」

7:29 わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方から出たのであり、その方がわたしを遣わされたからです。」

7:30 そこで人々はイエスを捕らえようとしたが、だれもイエスに手をかける者はいなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。

7:31 群衆のうちにはイエスを信じる人が多くいて、「キリストが来られるとき、この方がなされたよりも多くのしるしを行うだろうか」と言い合った。

7:32 パリサイ人たちは、群衆がイエスについて、このようなことを小声で話しているのを耳にした。それで祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスを捕らえようとして下役たちを遣わした。

7:33 そこで、イエスは言われた。「もう少しの間、わたしはあなたがたとともにいて、それから、わたしを遣わされた方のもとに行きます。」

7:34 あなたがたはわたしを捜しますが、見つけることはありません。わたしがいるところに来ることはできません。」

7:35 すると、ユダヤ人たちは互いに言った。「私たちには見つからないとは、あの人はどこへ行くつもりなのか。まさか、ギリシア人の中に離散している人々のところに行き、ギリシア人を教えるつもりではあるまい。」

7:36 『あなたがたはわたしを捜しますが、見つけることはありません。わたしがいるところに来ることはできません』とあの人が言ったこのことばは、どういう意味だろうか。」

イエス様が貧しい生い立ちであることで、人々は信じようとはしませんでした。まさにうわべを見ており、また人の基準でしか人を見ることのできない人々です。

イエス様はご自分が神様から遣わされたものであることを、公言しましたが、それは冒瀆にあたるとして、ユダヤ人たちはイエス様を殺そうとしました。そうでない人々もイエス様が離散しているユダヤ人を教えに行くだろうという的外れなことを考えていました。

このように多くの人々がいて多くの考えがありましたが、聖霊によって教えられた人だけが、イエスを主と告白することができたのです。

私たちが信仰に至ったのも決して自分自身の知恵ではないことを再認識して、心から感謝しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 26日 日曜

ヨハネ



7:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。

7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

7:39 イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったもので、御霊はまだ下っていなかったのである。

7:40 このことばを聞いて、群衆の中には、「この方は、確かにあの預言者だ」と言う人たちがいた。

7:41 別の人たちは「この方はキリストだ」と言った。しかし、このように言う人たちもいた。「キリストはガリラヤから出るだろうか。」

7:42 キリストはダビデの子孫から、ダビデがいた村、ベツレヘムから出ると、聖書は言っているではないか。」

7:43 こうして、イエスのことで群衆の間に分裂が生じた。

7:44 彼らの中にはイエスを捕らえたいと思う人たちもいたが、だれもイエスに手をかける者はいなかった。

7:45 さて、祭司長たちとパリサイ人たちは、下役たちが自分たちのところに戻って来たとき、彼らに言った。「なぜあの人を連れて来なかったのか。」

7:46 下役たちは答えた。「これまで、あの人のように話した人はいませんでした。」

7:47 そこで、パリサイ人たちは答えた。「お

まえたちまで惑わされているのか。

7:48 議員やパリサイ人の中で、だれかイエスを信じた者がいたか。

7:49 それにしても、律法を知らないこの群衆はのろわれている。」

7:50 彼らのうちの一人で、イエスのもとに来たことのあるニコデモが彼らに言った。

7:51 「私たちの律法は、まず本人から話を聞き、その人が何をしているのかを知ったうえでなければ、さばくことをしないのではないか。」

7:52 彼らはニコデモに答えて言った。「あなたもガリラヤの出なのか。よく調べなさい。ガリラヤから預言者は起こらないことが分かるだろう。」

7:53 【人々はそれぞれ家に帰って行った。

いよいよイエス様は、大声で人々に宣教を始めました。祭りの日には大勢の人々が世界の各地から集まっていたのです。またそのことによって、ユダヤ人の中では分裂が起こりました。

福音の宣教によっては、賛同する人もあれば、反対する人もあり、分裂が起こることもありうることです。しかし、このニコデモのように、真理に根ざした考えを持っている人もいます。彼はイエス様のもとに行って、教えを乞い、真摯に求道していたのです。

恐れずに大胆に真理を語るべきです。誰が信じるかは主の主権にゆだねましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

